

2018年10月28日(日)に小倉記念病院講堂(福岡県)において、第72回医療薬学公開シンポジウム(主催:一般社団法人 日本医療薬学会、後援:一般社団法人 福岡県病院薬剤師会、公益社団法人福岡県薬剤師会、公益社団法人北九州市薬剤師会)を開催しました。テーマを「進化する薬剤師 ～さらなる専門性の追求～」とし、シンポジウムと特別講演を企画しました。県内のみならず他県からも多くの先生方にお越しいただき、参加者は220名でした。

シンポジウムでは各分野で活躍されている先生方より、日常業務の中で専門性を追求した取り組みについて4題の発表がありました。小倉記念病院薬剤部の前田朱香先生からは「心不全患者の緩和医療における薬剤師の専門性について考える」と題して、多職種で構成される心不全チームでのカンファレンスの実践例を通じて、終末期心不全の緩和ケアにおいて薬剤師が果たすべき役割や、呼吸困難感の症状緩和を目的としたモルヒネの使用症例が紹介されました。長崎大学病院薬剤部の安藝敬生先生からは「急性期医療における薬剤師の専門性」と題して、救急医療・集中治療チーム内で専門性を発揮する重要性、その中で薬学的視点を大事に多くのプロブレムの立案、その時点だけの対応でなくその後の経過も考えること、日常業務が多忙であり繁雑であるからこそ、薬剤適正使用のマネジメントを実践する必要性が紹介されました。佐賀大学医学部附属病院感染制御部の浦上宗治先生からは「抗菌薬適正使用支援チーム(AST)における薬剤師の専門性」と題して、抗菌薬を選択する際の条件、AST薬剤師に求められるスキル、治療開始時・治療早期の診療支援を通じて、質の高い感染症治療に貢献していく重要性が紹介されました。独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院薬剤部の阿部名月先生からは「高齢者薬物療法における薬剤師の役割」と題して、ポリファーマシーカンファレンスの開催、処方見直し理由等を記載した施設間情報連絡書の作成、フィードバック依頼による双方向での情報共有システム構築の試みが紹介されました。その後、ご講演いただいた4名の先生方による総合討論を行い、会場との活発な意見交換がありました。

特別講演では神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部 副部長代行の池末裕明先生より「がん薬物療法における薬剤師の役割 -これまでと、これから-」と題して、現場の問題点に向き合い、エビデンスを活用しエビデンスがなければ創ることや、外来薬剤師業務の現状を解説されました。また免疫チェックポイント阻害薬について院内横断的な安全管理の要としての役割を果たすため、有害事象の早期発見を目的として、院内で策定した薬剤師による検査オーダー入力支援プロトコルを運用し、高い評価を得ていることも紹介されました。次世代の専門薬剤師の育成に向けた取り組みについてもご講演いただき、会場からも活発な質疑がありました。

最後に、講演をご快諾いただきました演者の先生方、並びに座長の労をおとりいただいた先生方、さらに企画・運営にご尽力いただきました一般社団法人 日本医療薬学会事務局の方々には厚く御礼申し上げます。